

九州地方会30周年にあたって

鹿児島県代表幹事 重 田 浩 樹



鹿児島の幹事をしております重田と申します。このたびは日本小児歯科学会九州地方会30周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

九州地方会の一番の思いでは、学術的なことを挙げられないのが残念ではあります、「懇親会」が真っ先に頭に浮かびます。学会終了後の夜に「懇親会」が開催されていた時代があり、そこで、各大学の新人が自己紹介を兼ねて芸を披露していました。私が鹿児島大学の小児歯科に入局したときには鹿児島大学が主管で沖縄での地方会が開催されたのですが、運営の準備は先輩にまかせ新入医局員が夜の公園に集まり、芸の練習をしたのが昨日のことのように思い出されます。もっとも、披露した芸は全く受けず、その後の沖縄での医局旅行は全然楽しめないくらいに心に傷を負いましたが…。今となっては良い思い出です。

さて私は、薩摩半島のやや北に位置する薩摩川内市という所で4年前に開業させていただきました。歯科医院の新規開業は難しいとの情報があり、不安を抱えながら開業しましたが、その時に歯科医師会を含め地域の方々に小児歯科専門の歯科医院ができると喜んでいただきました。これもひとえにこれまでの九州地方会の役員の先生方、会員の皆様の献身的な地域への貢献があったおかげだと思い、感謝しております。私も微力ではありますが、地域に根ざした小児歯科医になり、小児歯科医療を通して地域に貢献できるよう努力していきたいと感じております。

九州地方会30周年、そしてこれから

沖縄県代表幹事 竹 島 勇



日本小児歯科学会九州地方会30周年を祝い、これまでご尽力いただいた諸先輩方に感謝申し上げます。私も卒後29年になり、開業して26年目を迎え、月日の流れの早さを痛感するとともに、小児歯科九州地方会とともに歩んできたことを思います。

私の大学院当時は、学会員も少なく、地方会においては、ほとんど全員が同じ宿泊所で、地方会終了後には、各大学ごとのカラーのある余興を楽しみつつ夜遅くまで酒を酌み交わし懇親を深めたのをなつかしく思い出します。

沖縄県では、30年の間に2回の地方会の開催がありましたが、特に、26回大会は当時の福岡歯科大学の本川教授のお計らいにより準備委員長を務めさせていただき、無事大会を開催することができましたことは、私にとって貴重な経験でした。

少子化が加速する中、患者の要求も多様化しており、それに応えられる専門的な知識を持った歯科医が必要だと思います。学会に要望するのは、学会、セミナー等を多く開催し、小児歯科の魅力を広め、新しい会員を増やしてほしいということです。

現在は、九州各県に開業医主体の研究会もでき、これからは時代にあった、地域に根ざした活動ができるのではないかと思います。今後は、大学と研究会が連携し更なる発展のきっかけになるのではと期待しています。

私も微力ながら貢献していきたいと思います。